

# 禪寺雜記帳

◆臨濟宗には私たちの建長寺をはじめ、全部で14の本山、派があります。国内の臨濟宗の寺院数は5846軒、このうち3453軒、約6割が妙心寺派のお寺になります。

◆妙心寺の開山は、関山慧玄かんざんえげんといひます。甲斐の武田信玄は禪を極めようと相当の修行をした武士で、師の岐秀元伯ぎしゅうげんぼくからは機山信玄という号を与えられて、「自分は関山慧玄の生まれ変わりである」と称したという記録が残っています。信玄に限らず、戦国時代の武士の拠り所は、禪の教え、特に臨濟宗でした。

◆徳川家康は今川家の人質として幼少時代を過ごした際に静岡の臨濟寺で臨濟僧であり武士でもある太原雪齋たいげんせつさいから教育を受けています。この雪齋は妙心寺の35世にもなっている高僧で、今川義元の教

育係でもあり、義元は雪齋と共に京都、建仁寺や妙心寺で禪修行をしています。

◆徳川家康には閑室元估かんしつげんみつという臨濟僧がつき、関ヶ原の戦いではこの僧の占いによつて勝利を収めたという記録も残されています。金地院崇伝こんちいんすうでんという臨濟僧も家康を支えています。

◆織田信長、豊臣秀吉、北条早雲、伊達政宗など、誰もが知っている戦国武将には皆、臨濟僧のブレンがついていました。自分が判断を誤れば領地も領民の命もどうなるかわからない緊張の日々を、禅僧の指導の下、坐禅をしながら腹を決めて政を行つたのです。

◆しかし江戸になって平和になるとその必要性が薄れてしまい、臨濟宗は衰退しました。これを立て直した白隠禪師は『臨濟宗中興の祖』と言われるのです。

◆日本には中国から24流の禪が伝わりました。3つは曹洞宗、1つは黄檗宗、残りの臨濟の20の流派のうちで現在まで残っているのは1つだけになります。

①大応国師②大灯国師③関山慧玄(これを応灯関といひます)から白隠禪師へと続く法系です。①の大応国師は建長寺の開山、蘭溪道隆らんけいどうりゅうに参じた後に中国で修行、帰国後建長寺13世となつた僧です。②の大灯国師は建長寺で修行の後、大徳寺の開山に、③の関山慧玄も建長寺で出家しています。

建長寺が「日本禪の源流」なのです。

◆現在、大阪市立美術館にて、『妙心寺禪の継承』展が開催されています。大阪のみでの開催でハードルが高いですが、公式HPからは図録を購入出来ます。

(禅林 恭山)

